

令和２年度第２回「沖縄の産業振興のあり方検討会」議事要旨

○日 時：令和２年１１月１２日（木）１５：００～１７：００

○場 所：那覇市ＩＴ創造館２Ｆ 会議室

参加委員

西田委員長、富川委員、川上委員（代理：酒巻委員）、金城委員（代理：玉城委員）、古波津委員、原委員、下地委員、高橋委員、大嶺委員、伊達委員、杉委員、坂野委員

議題

１．ゲストスピーチ

テーマ：“Smart Worldフロンランナー”としての沖縄
～データプラットフォームを基盤とした観光立県沖縄発のDX～

講師：NTTコミュニケーションズ株式会社

ビジネスソリューション本部

西日本営業本部長 井上睦宏 様

西日本営業本部 アーバンプロデュースPT担当課長 杉山知之 様

２．検討分野における現況分析及び今後の動向等について

議事概要

ゲストスピーチにおいて、DXの概念等について説明及び各地域における導入事例の紹介を行った。

沖縄の各産業分野の現況分析及び今後の動向等について事務局より説明を行った。

その後、各委員からあった意見は、以下のとおり。

◆検討分野における現況分析及び今後の動向等について

○製造業分野では、バイオや半導体及び医療関連等高付加価値な業種の集積が重要。今後ともアジアのダイナミズムを引き込むよう継続した誘致を推進していくことが必要という意見があった。

○また、製造業においては、高効率化、標準化によって高品質なものを提供すること可能となるため、アジアで勝負する企業は（需要が落ちている）今が改善を進める好機であるという意見があった。

○DXについて、サイバーセキュリティなしにDXは成り立たない。現在、監視センターは東京への一極集中であり、沖縄はバックアップ拠点として可能性があるという意見があった。

○DXの需要増により色々なデータが集まるが、それらを分析するデータサイエンティス

トなどの不足が考えられる。必要な人材を把握しながら、確保していくことが重要という意見があった。

○アフターコロナでは、「安全・安心」が求められる。それらを県が推進することで、ビジネスチャンス・企業誘致につながることを期待できるという意見があった。

○各産業に特化したかたちでの議論が進んでいるが、観光と他産業など、異なる産業をどう結びつけていくか、どう取り組んでいくかについての検討が必要という意見があった。

以上